

日本学術会議会員任命をめぐる問題に関する声明

10月1日、日本学術会議第25期(2020年10月1日～2023年9月30日)の発足にあたり、同会議が推薦した新会員候補者105名のうち6名が、内閣総理大臣により任命されない事態となりました。日本学術会議は、学術が文化国家の基礎であるという確信の下、行政・産業及び国民生活に科学や学術を反映・浸透させることを目的として、1949年1月に政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。日本考古学協会は趣旨に賛同し、これまで同会議の協力学術研究団体として、会員および連携会員の推薦をはじめ、密接に協力して各種の学術活動を展開してまいりました。

この度の、一部の推薦会員が十分な理由の説明もないままに任命されなかった事態は、日本学術会議の中立性を脅かす異例な措置と指摘せざるをえず、大変遺憾です。政府には10月2日付けで日本学術会議から発出された「第25期新会員任命に関する要望書」に従い、すみやかに6名の会員候補者が任命されない理由を説明し、学術会議の推薦通りに任命することを求めます。

日本考古学協会は、日本学術会議が十分な活動を行うことができるよう、今後も協力を続けていく所存です。

2020年10月24日

一般社団法人日本考古学協会

代表理事・会長 辻 秀人